

## 令和2年度 「土質・地質技術者生涯学習協議会」 議事録

日時：令和3年3月16日（火） 15:30～16:40

場所：WEB会議

出席者：

- （一社）日本応用地質学会（小俣会長）
- （一社）日本地質学会（佐々木委員）
- （一社）物理探査学会（内藤委員）
- 日本情報地質学会（坂本委員）
- （国研）産業技術総合研究所（斎藤委員）
- （一社）全国さく井協会（岡崎委員）
- （協）関西地盤環境研究センター（橋本委員）
- 山口大学理学部地球圏システム科学科（太田委員）
- フィールドの達人企画委員会（大石委員）
- （社）全国地質調査業協会連合会（高橋、小口、平根）

欠席者：（公社）日本地下水学会、NPO 日本地質汚染審査機構

議 事：

### 1. ジオ・スクーリングネットの運用状況について

- 現在の会員数、プログラムの登録状況などについて、事務局より報告があった。
  - ・利用登録者数は増え続けており、ここ数年は年間300名前後のペースで増えている。
  - ・講習会の開催件数はこの1年、コロナの影響で減少したものの、WEB開催の実施を取り入れたことで1開催当りの参加者数が増えたケースがあったほか、遠方・全国多くの地域から参加いただいたケースもあった。
  - ・一昨年、協議会にて要望のあったWEBサイトの見直し改修については、その約半年後に変更作業が終了し、その後、システム運用やセキュリティなどのトラブルは無かった。

### 2. 建設系 CPD 協議会の活動状況について

- 資料に基づき、小俣会長と事務局より説明・報告があった。また、当協議会におけるCPDの重み係数の考え方については、協議の結果、WEB講習会におけるCPDの考え方をホームページ（重み係数表）に加筆することになった。
  - ・建設系CPD協議会の会合では、コロナにより開催機会の増えたWEB講習会によるCPDの相互承認の議論が始まっている。しかし、その方向性はまだ示されていない。
  - ・WEB講習会における本人確認方法について、学協会によってはアクセスログや動画途中での質問アンケートによる回答の有無などで行っていた。その他、WEB講習会で開催したCPDの相互承認について、CPD単位数を認めるか否かの問題が学協会間の一部ですでに発生し、技術者が苦勞している。
  - ・当組織におけるWEB講習会では、事前申し込み制によるオンデマンド配信を行ったが、本人申込みの確認ができるような講習会についてはCPD証明書を発行している。
  - ・WEB講習会でCPD証明書を発行するにあたっては、事前申し込み制による入口確認の

ほか、講習中の課題提示やアクセスログなどによる出口確認も必要になるのか。

- WEB講習会やe-ラーニングでは、本人確認の課題を意見する学協会も少なくない。しかし、対面講習会の際に、入口・出口を含め、運転免許証等で本人確認している学協会は聞いたことがない。
- WEB講習会におけるCPD証明書の発行有無については、事前申し込み制など受講申込者が確認できる点が判断のポイントといえる。

### 3. 全地連におけるCPDの活用例およびWEB講習会のCPDの取り扱いについて

→ 資料に基づき、事務局より説明があった。また、CPDの取り扱いについては、議題2の協議で合わせて検討された。

### 4. 令和3年度の会費について

→ 事務局より、次年度の会費（案）の説明があり、了承された。

### 6. その他

→ 参加者より、次の発言があった。

- 教育機関では、授業用として用意していたオンライン授業システムがWEB講習会でもうまく活用できることが分かり、セキュリティや利用者も確認できている。
- 新人向けなどのWEBによる講習会をここ1年で開くようになった。参加者の属性をみると、地理的な問題をクリアにし幅広い方の参加もあり、WEB開催の有用性も確認できた。今後は、WEB講習会の開催機会を増やしていきたい。
- YouTubeを活用した動画配信などにより、従来の参加者属性とは異なる社会人の参加も期待できる。すそ野を広げる上で、様々な発信媒体を活用することが今後有効と思う。発信方法などについては、この協議会メンバーで情報共有を図りたい。
- 当組織ではこの1年、少人数による缶詰的な対面講習会などを開く機会もあったが、海外関係の講習会は中止にせざるを得なかった。初心者向けのWEB講習会を開催したが、これはたくさんの応募をいただくことができた。

以上